

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

- 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、全体で虹の架かる学校
- 将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校
- 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校

【生徒に育みたい力】

- 強靱な知性 ・ みずみずしい感性 ・ 品格ある人間性
- 確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等）
- 生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等）
- 豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生 等）
- 社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

2 中期的目標

【基調】

進学指導特色校（グローバル・リーダー・ハイスクール）の継承・発展 ⇒ 深化する高津高校・高津生は一つ（普通科と文理学科の協働と切磋琢磨）／力のある教職員

1 確かな学力を踏まえつつ、高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進

(1) 生徒のもつ学力を最大限に引き出す

ア 魅力ある授業の実施

効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、本校独自の「Can-do リスト」を作成し、生徒に明確な道標を提供する
* 生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H25：3.1／4点満点）を平成 28 年度までに 3.2 以上に引きあげ、維持する

イ 講習・補習の充実

放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容と規模を充実させ、進路実現に向けた指導を行う

* 難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生＋既卒生／H25：56 人）を平成 28 年度までに 60 人以上に引きあげ、維持する
* 国公立大学への現役生の合格者数（H25：128 人）を毎年 120 人以上で維持する

ウ 英語運用能力の向上

英語で授業を行うことを基本としつつ、外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める

* 実用英語技能検定試験 2 級合格者数（H25：33 人）及び TOEFL ITP 500 点以上を得点した生徒数（新規）を平成 28 年度までにそれぞれ 50 人、20 人以上に引きあげ、維持する

(2) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める

ア 文理学科「課題探究講座」（文系・理系）の内容のさらなる充実と全校生徒での共有

* 文理学科 2 年生の「課題研究（高津 LCII）」に対する満足度を高めるとともに、普通科生徒の参加数（H25：約 100 人）を 150 人以上に増やす

イ 創造探究事業（高大連携）の内容の充実

* 1・2 年生の文理学科の外部連携事業への延べ参加者数（H25：820 人）を平成 28 年度までに 960 人に引きあげ、維持する

ウ 海外の科学先進校との交流の推進

海外の科学先進校との交流日数を増やすとともに、共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容を充実させる

* 交流日数（H25 年度：9 日）を平成 28 年度には 12 日まで増加させ、維持する

(3) 進路指導をさらに充実させる

ア 自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学等研究室・機関訪問）の充実

1 年生は、望ましい職業観・勤労観を育成することを目標に、訪問時の質問内容の精度を高めるとともに、プレゼンテーションの質的向上を図る

2 年生は、大学等における学問・研究に対する理解促進を目標に、生徒同士が学んだ内容について実施するポスターセッションの質的向上を図る

* 1・2 年生とも訪問先（H25：1 年生 63 カ所、2 年生 50 カ所）を 50 カ所以上、生徒満足度（H25：92%）を 90% 以上で維持する

イ 3 年間を見据えたキャリア教育の充実

学校としての進路指導方針（高津進路プログラム：KSP）を確立し、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する

* 生徒・保護者向け学校教育自己診断の進路指導に関する満足度（H25：80%・82%）を、ともに平成 28 年度までに 85% 以上に引きあげ、維持する

2 スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立

(1) 人権尊重と生徒の社会体験活動の促進

* 生徒・保護者向け学校教育自己診断の、人権に関する指導に対する肯定率（H25：ともに 86%）を、85% 以上で維持する

* 部活動参加生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（H25：88%）を、平成 28 年度までに 90% 以上に引きあげ、維持する

(2) 規律・規範意識の向上

* 年間の遅刻者総数（H25：2,415 件）を平成 28 年度までに 2,000 件以下にし、維持する

(3) 生徒の自主的活動の活性化（部活動、生徒自治会活動）

* 部活動加入率（H25：88%）を、85% 以上で維持する

* 記念祭（体育祭・文化祭）における生徒実行委員会（三部会）に参加する生徒数（H25：240 人）を 200 人以上で維持する

(4) きめ細やかな保健指導と教育相談体制の充実

* 生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（H25：72%）を、平成 28 年度までに 75% 以上に引きあげ、維持する

3 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

(1) 教科指導力の向上

* 生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H25：3.1／4点満点）を、平成 28 年度までに 3.2 以上に引きあげ、維持する

(2) 研修の充実

* 教員向け学校教育自己診断の校内研修に関する肯定率（H25：63%）を、平成 28 年度までに 80% 以上とし、維持する

(3) ミドルリーダーや経験の少ない教員の育成

* 教員向け学校教育自己診断のミドルリーダー育成に関する肯定率（新規）を、平成 28 年度には 70% 以上とする

(4) 学校の組織的運営

* 教員向け学校教育自己診断の各分掌や学年・教科等の円滑な連携・有機的機能に対する肯定的意見（H25：70%）を平成 28 年度には 80% 以上とし、維持する

(5) ICT 活用ならびに実験・実習、体験的な教科指導の充実、校務の効率化及び情報共有

* 生徒向け学校教育自己診断の ICT 活用や実験・実習、体験的な教科指導に対する満足度（H25：65%）、教員向け学校教育自己診断の校務の効率化及び情報の共有に対する肯定的意見（新規）をともに平成 28 年度までに 75% 以上とし、維持する

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

* 生徒による社会体験・貢献活動（ボランティア講座、支援学校との交流、クラブ員によるキャラバン隊 等）をさらに活性化させる

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 実施分]	学校協議会からの意見
<p>*今年度から、より具体的な学校課題が浮きあがるよう、質問項目を精査、改訂することと合わせて、回答として「わからない」を追加した。以下「わからない」が10%以上の項目について「：◎実際の%」を印す。</p> <p>○本校での取組みについて、今年度も概ね高く肯定していただいた。肯定率80%以上ならびに60%未満の主な項目と認識、今後の課題等を記す。</p> <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教職員は、授業をはじめとした教育活動に熱心に取り組んでいる」生徒87%、保護者84%：◎10% ・「本校の学習の評価は適切で納得できる」保護者82%：◎10% ・「授業には、ICT機器が積極的に取り入れられている」生徒82% ・「実験・実習や体験的な学習が適切に行われている」教職員93%（生徒75%） ・「カリキュラムは生徒の進路希望・適性に応じている」教職員83%（生徒69% 保護者71%：◎15%） <p>「体験的な学習」「カリキュラム」について、教職員と生徒の認識に、やや開きがみられる。回答結果を精査・分析し、さらなる改善に努める。</p> <p>【進路指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教職員は、生徒の進路実現に積極的に取り組んでいる」生徒83%（保護者78%：◎11%） ・「学校行事等を通して、将来の生き方や進路に関して考える機会が多い」生徒83% 保護者81% 教職員80% ・「土曜日等の講習や補習」保護者84% 教職員82%（生徒76%） <p>進路指導については、この間の計画的な取組みにより、生徒・保護者ともに評価が高まり、教職員も学校全体が一体となって取り組むことの効果を実感しつつある。生徒の希望進路実現に向けて、さらに戦略的・効率的な支援に努める。</p> <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「記念祭等学校行事やSSH、GLHSとして設定している活動の充実」生徒90% 保護者93% ・「(子どもは)学校行事、HR活動等に積極的に参加・参画」保護者83% ・「自治会活動は活発で、適切」保護者59%：◎35% 教職員53% ・「部活動は活発で、適切」教職員80%（生徒75% 保護者79%：◎10%） ・「生徒指導方針は適切で、すべての教職員に共有」教職員46% <p>学校行事やSSH、GLHSとしての取組みが高評価を得ている一方、自治会活動、生徒指導方針の共有についての評価が、従前に比べて低くなり、自治会活動では生徒の19%が「わからない」を選択している。生徒に対するこの部分の働きかけは、現在の本校の重要な課題であり、教職員の低い肯定率は、この点への危機感・葛藤を反映したものと捉えている。時代や社会、高校生気質の変化等を踏まえ、あらためて校風・校是の本質に立ち返り、望ましい深化に努める。</p> <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個人情報の管理」教職員98% ・「学校は、教育方針等をわかりやすく伝え、共感できる」保護者81% ・「学校は、保護者に開かれ、信頼感が醸成されている」教職員95% ・「学校経営計画等に基づき組織的かつ適切に運営」教職員58% ・「GLHSとしての取組みへの意識共有、充実」教職員58% ・「SSHとしての取組みへの意識共有、充実」教職員56% ・「校務効率化に向けた情報共有等による組織としての機能」教職員48% <p>学校の適切な発信・説明等について、保護者から共感を伴う高い評価を得ることができた。学校として大切にしている観点でもあり、相互の信頼感が確認できたことは素直に喜ばしい。一方で、教職員はGLHS・SSHとしての取組みをはじめ、組織的・機能的な学校運営に不十分さを感じている。様々な工夫がスピード感を持って求められる多忙感や不安とともに、「より良い状態に近づきたい」という前向きな思いが、逆に低い数値として表われた結果と捉えている。この向上心をバネに、教職員がより一体となり、一層効果的な生徒支援が可能となるよう、来年度の重点項目として取り組んでいく。</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入学してよかった、入学させてよかった」生徒90% 保護者92% ・「校風・校是を踏まえた授業や教育活動」生徒81%保護者92% ・「人権を大切にすることや、社会のルールを守る態度の育成」生徒80% ・「(教職員の)生徒の人権を尊重した指導」生徒81% 教職員94% ・「教室・廊下・トイレ等の環境は、清潔に保たれている」生徒57%、教職員58%（保護者62%：◎11%） <p>総合的であり、また基本となる「入学して(させて)よかった」に対する肯定率が、生徒・保護者とも90%を超え、同時に学年進行と連動して肯定率が少しずつ高くなっている。「人権を大切に、尊重する」本校の基本的な取組み、働きかけが生徒・保護者にきっちりと伝わっていることと合わせて、素直に喜ばしい。引き続き、きめ細かい指導・対応に努めることで、肯定率のさらなる向上をめざす。</p> <p>一方で、教室・廊下・トイレ等の環境については、年を追って肯定率が低下している。経年劣化等もあり、ある意味驚く結果ではないが、自助努力による工夫も考えながら、改善に向けて努力していきたい。</p>	<p>第1回（7/18）</p> <p>【平成 26 年度学校経営計画及び学校評価等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習や多様な取組みに向き合う意欲等について、いわゆる2極化の傾向が感じられる。そのままでは意欲が高くない生徒をいかに振り向かせるか工夫が必要。とりわけ、第1学年のはじめをどのように過ごさせるかが大事。 <p>【大阪府進学指導特色校（Global Leaders High School）評価審議会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校としての“構え”や経営戦略をしっかりと持つことが重要。戦略については、短期的なもの、長期的なものを考えることが必要。生徒の気質も、時代とともに変わっていく中で、まずは、短期的な戦略を考えることが大切。 ・4年後に迫っている100周年を好機ととらえ学校・同窓会・PTAなど、高津に関わる人たちが一丸となって取り組んでいただきたい。 <p>【本校の特色ある教育活動（特に、今年度新規の取組み）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの流れも踏まえ、概ね良い企画。参加した生徒だけに効果がとどまらないよう、生徒が自分たちの言葉で全校生徒にフィードバックしていく機会もほしい。 ・注目される事業は重視され、そうでない取組みは排除される流れにならないか気になる。これまで培ってきた本校の特色の有効性を、さらに証明・発信し続けてもらいたい。 <p>第2回（12/19）</p> <p>【GLHS総合評価結果等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従前の高津は、生徒が自分たちのペースで自学自習し、教員はあくまでサポートに徹するスタイル。今回の指標は、本校のこれまでのカラーにはなじみにくい。捉え方や取組みを大きく変えなくてはならないだろう。 ・「高津らしさ」とは何か。「高津」にあぐらをかいていないかと感じることもある。「高津らしさ」で済ませないで、計画を決めて早く動き、1つ1つ解決していくことが重要。高津高校として、どちらの方向へ行くのか、一つの分かれ道に差し掛かっている。 ・指標をクリアすることと同時に、生徒の希望をふまえて、慎重に検討していくことが大切。また、効果的な広報も重要。ホームページや学校説明会、中学校への案内等を、さらに工夫してもらいたい。 <p>【本校の特色ある教育活動（第1回学校協議会以降の取組み）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の日常的な取組みが、全国的にも高い評価を受けたことは、後輩の励みにもなり、学校全体の活性化に繋がる。このような地道な取組みを続けてもらいたい。 <p>【授業力・進学実績の向上について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価3.196という値は良い値である。授業力は学校・教員として何よりの基礎。前回「Can-doリスト」という話もあったが、道標を示すことで、生徒自身が意欲的に授業に向き合うことができれば、結果もついてくる。引き続き、学校をあげてさらなる授業力の向上に取り組んでもらいたい。 <p>【創立100周年に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100周年というのは、やはり大きな節目。うまく準備を進める中で、同窓会の一層の活性化や、生徒の意識改善が図れる可能性も大きい。100周年以降の高津高校を見据え、必要なテコ入れやチャレンジの好機と捉え、大いに活用してもらいたい。 <p>第3回（3/27）</p> <p>【大学入試結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の卒業生は、まとまって学校行事や勉強に取り組む、放課後、土曜の自習、講習や論文指導にも多数集まったということだが、結束することで力が出せたのだろう。高津らしさの一面でもあり、今後も続けてもらいたい。 ・同時に、志望校を決める際に、京大、阪大、神大等、生徒の志望を引き上げるような指導もしてはどうか。 <p>【学校経営計画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度評価、27年度（案）は概ね適切だと思う。生徒の能力を最大限引き出し、学校生活の満足度や進学実績のさらなる向上に努めてもらいたい。 <p>【GLHS評価について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学実績としての評価対象の一つが、来年度以降スーパーグローバル大学・タイプAの13大学に変更されるということだが、大学側も、学部再編や入試改革が検討されている。高大接続について新たな展開が予測される中、正確な情報収集と、それを踏まえた適切な指導が必要となるだろう。 <p>【学校教育自己診断について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の組織的運営についての肯定率が48%というのは少し低いように感じる。7～8割は学校としての本筋があり、個々の教員の裁量は2～3割が妥当だろう。 ・教員が連携するような工夫を意図的に取り入れてみてはどうか。レクリエーション等を実施する組織は、メンバーの連携も強い。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力をふまえて、高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み	【新学習指導要領を踏まえた特色ある教育課程の実施】 ア 文理学科 2 年次の課題探究講座の充実	ア・文理学科 2 年次の「課題研究（高津 LCII）」を通して、生徒の探究心とプレゼンテーション能力の向上を図る。（継続・発展）。また、生徒発表会への普通科生徒の参加を増やし、その成果をより多くの生徒に普及させる。（継続）	ア・文理学科 2 年生の「課題研究（高津 LCII）」に対する満足度を高める（アンケート／満足度 100%）。 ・研究発表分科会への普通科生徒の参加人数（H25：約 100 人）を 150 人以上に増やす。	ア・アンケートでの授業に対する満足度は 93% で、目標には及ばなかったが、取組み状況は、年ごとに進化しており、概ね良好な成果を得た。（○） ・普通科生徒の参加人数は、約 120 人で、目標を達成した。さらなる参加生徒増をめざす。（○）
	イ 魅力ある授業等の実施	イ・効果的な補助教材（ICT 活用を含む）を開発するとともに、教員同士の授業交流と研究協議を一層活発にし、指導技術をさらに高める。（継続・発展） ・授業における ICT の活用を図る。（充実）	イ・生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H25：3.1／4 点満点）を 3.2 以上にする。 ・生徒・教員向け学校教育自己診断の、授業における ICT 活用についての肯定率（H25：生徒 70%、教員 78%）を、それぞれ 5% 以上引きあげる。	イ ・授業アンケート平均値 3.196 で、ほぼ評価指標を達成。来年度以降も、授業力の向上に努めていく。（○） ・授業における ICT 活用についての肯定率は、生徒 82%、教員 51%。生徒については、大きく成果指標を超えたが、教員は大きく低下した。これは、今年度、質問文を変えた（「本校では」⇒「あなたは」）ことが原因と考えられ、ICT を活用した授業自体は、順調に増えている。（○）
	ウ 体験型進路学習の充実	・高大連携事業等をすすめ、大学における学問や研究に対する興味関心を高める。（充実） ・1・2 年生全員対象に英語少人数集中講座を通して、英語コミュニケーション能力を向上させる。また、1・2 年生対象に、実用英語技能検定試験等の受験を促進する。（発展） ・土曜講習や補習等の内容を充実させ、生徒の学力を向上させる。（充実）	・高大連携事業への参加生徒数（H25：820 人）を 900 人以上に増やす。 ・1・2 年生全員に実用英語技能検定試験の受験を促し、英検 2 級合格者（H25：33 人）を 40 人以上とする。 ・生徒向け学校教育自己診断での肯定率（H25：76%）を 80% 以上に高める。	・高大連携事業への参加生徒数は約 910 人で、目標を達成できた。（○） ・英検 2 級合格者数は 181 人で、成果指標を大きく超えた。（◎） ・肯定率は 76% だが、今年度から回答に「わからない」という項目を加え、7% の生徒が「わからない」と回答していることから、ほぼ目標は達成したと捉えている。（○）
	エ 教育課程の点検	エ・教育課程を点検し、必要に応じた見直しを行う。（継続）	エ・平成 28 年度入学生を対象とした教育課程において TOEFLiBT 受験に向けたコース設定について、今年度中に結論を得る。	エ・TOEFLiBT に向けたコースについて、80 人を想定したカリキュラムまで決定した。H27 実施校の状況を見極めながらさらに準備を深める。（○）
		ウ 体験型進路学習の充実	ウ・総合的な学習の時間を活用し、7 月と秋に実施する体験型進路学習を通して、進路に対する意欲を高める。（継続・発展） 1 年生「職業人からの聴き取り」 2 年生「大学等研究者からの聴き取り」	ウ・生徒の満足度（H25：92%）を 90% 以上で維持する。

府立高津高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">豊かな心のはぐくみと規律・規範の確立</p>	<p>【人権尊重と規範意識の向上】</p> <p>ア 人権尊重精神の育成</p> <p>イ 社会体験・社会貢献活動の促進</p> <p>ウ 基本的生活習慣の定着</p> <p>エ 教育相談体制の充実</p>	<p>ア・学年進行に応じて人権尊重の精神を涵養する。(継続)</p> <p>1年 学習合宿(コミュニケーション力等) 近畿統一応募用紙、講演会、リバティおおさか見学</p> <p>2年 車いす・アイマスク体験、講演会</p> <p>3年 講演会</p> <p>・SSH事業等を通して、海外の高校生との交流を促進し、国際理解を促進する。(充実)</p> <p>イ・社会体験・社会貢献活動を促進する。(継続)</p> <p>1年生希望者対象「ボランティア講座」東大阪支援学校、視覚支援学校との交流</p> <p>クラブ員の社会貢献活動「高津キャラバン隊」高校生フェスティバルでの高齢者との交流</p> <p>ウ・挨拶の励行と遅刻者数の減少に取り組む。(充実)</p> <p>エ・支援や配慮を要する生徒対象に、スクールカウンセラーによる助言等の機会を通して、生徒及び保護者の悩みの解消に努める。(継続・発展)</p>	<p>ア・生徒・保護者向け学校教育自己診断での肯定率(H25:ともに86%)を85%以上で維持する。</p> <p>イ・ボランティア講座参加生徒数(H25:のべ約120人)を150人以上に増やす。</p> <p>・全クラブが社会貢献活動を年1回以上行う。</p> <p>ウ・遅刻者数(H25:2,415件)の減少をめざす(2,000件以下)。</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度(H25:72%)を75%以上に、保護者の学校への相談に対する満足度(H25:68%)を70%以上に引きあげる。</p>	<p>ア・肯定率は生徒80%、「わからない」5%、保護者76%、「わからない」16%で、今年度からの回答の設定を変更したため、厳密には比較できないが、ほぼ設定指標を達成したと捉えている。(○)</p> <p>イ・予算カットのため「ボランティア講座」は実施を断念。支援学校・高齢者との交流については、それぞれ予定通りに実施。とりわけ高校生フェスティバルでは、早くも来年度の継続実施を望む高齢者の声が多数寄せられた。(◎)</p> <p>・昨年度の経験も活かし、全クラブが積極的に、また円滑に社会貢献活動に参加した。(◎)</p> <p>ウ・遅刻者数は、12月末現在1,639件。成果指標は、十分にクリアできる見込み。来年度もさらなる減少を図る。(◎)</p> <p>エ・満足度は、生徒70%、「わからない」13%、保護者62%、「わからない」27%で、今年度からの回答の設定変更により、厳密には比較できないが、ほぼ設定指標を達成したと捉えている。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教職員の資質の向上と学校運営体制の確立</p>	<p>【教師力の育成】</p> <p>ア 教科指導力の向上</p> <p>イ 教職員研修の充実</p> <p>ウ ミドルリーダーや経験の少ない教員の育成(講師を含む)</p> <p>エ 校務のさらなる効率化及び情報共有</p>	<p>ア・教員間の授業交流を促進するとともに、研究授業を通して、授業力向上に努める。(充実)</p> <p>・生徒よる授業評価(年2回)や授業公開等を実施し、その結果を教員にフィードバックし、授業改善に生かす。(継続・発展)</p> <p>イ・人権や教育相談をはじめ、校内研修や学校外の研修を通して、諸課題に対する理解を深める。(継続)</p> <p>ウ・校内で学習会を実施するなど、教科指導、校務分掌のほか、さまざまな教育活動や開かれた学校づくりへの参加・参画を促進する。(継続・充実)</p> <p>エ・学校のさらなる組織的運営を図る。(継続・発展)</p>	<p>ア・授業アンケート全質問の平均値を3.2以上に引きあげる。</p> <p>イ・教員向け学校教育自己診断における満足度(H25:63%)を65%以上に引きあげる。</p> <p>ウ・教員向け学校教育自己診断における肯定率(新規)を60%以上にする。</p> <p>エ・教員向け学校教育自己診断における肯定率(H25:70%)を70%以上で維持する。</p>	<p>ア・授業アンケート平均値(正教諭のみ)3.196で、ほぼ評価指標を達成。来年度以降も、授業力の向上に努めていく。(○)</p> <p>イ・満足度は76%と大幅に成果指標を超えた。来年度以降も引き続き、効果的な研修を実施し、教職員のさらなる資質向上に努める。(◎)</p> <p>ウ・肯定率は55%と、成果指標はクリアできなかったが、4年後の100周年を見据えたPTに、ミドルリーダーを積極的に配したことなどにより、学校に新たな息吹が吹き込まれた。(○)</p> <p>エ・肯定率は48%。自己診断の設問を改訂し、到達水準を大幅に高めたこともあり、本校の大きな課題が明確に浮かびあがった。来年度の重点項目とする。(△)</p>